

第1回奈良 ESD 連続セミナー

大西 浩明

◇日時：2024年5月7日（木）19時～21時

◇方法：Zoomによるオンライン形式

◇参加者：54名

◇内容：「SDGsの基礎的理解（1）～持続可能な開発目標（SDGs）の目指すもの～」

奈良教育大学准教授 及川幸彦先生

1. SDGsが提案された背景（グローバル・イシュー）

絶え間ない紛争と対立

顕在化する環境問題

苛烈化する自然災害

グローバル化と自国主義

経済的格差の拡大

科学技術の進歩と社会構造の変革

人口格差

感染症の拡大

世界の暴力や差別

- ・約2800万人の子どもたちが紛争で故郷を奪われる（2015年）
- ・推定1億5200万人の子どもたちが働かされている（2017年）
- ・15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5000万人（2014年） など
ウクライナ侵攻とパレスチナ戦争

子どもの貧困と不平等

年間520万人の子どもが5歳前に死亡（6秒に1人）

極度の貧困状態下の7億1000万人のうち、子どもが3億5600万人

5900万人の小学校就学年齢の子どもたちが学校に通えていない

気候変動と災害、環境問題

大気中の温室効果ガスが増え続け、温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えている

気候変動により世界で災害が多発・甚大化している

山林火災や干ばつが増え、動植物が絶滅したり生物多様性が失われたりしている

森林伐採と持続可能な生産・消費（パーム油）

パーム椰子から取れるパーム油は、食品、洗濯洗剤、医薬品などに幅広く利用されている

パーム椰子農園の急激な拡大に伴う熱帯雨林の伐採、生物多様性の喪失、土地の劣化、山林火災の多発

海洋プラスチック問題

2050年には海の魚の量を超える？

分解されず、細かく砕ける → マイクロプラスチック

有害物質の付着 生態系への影響

海の世界連鎖で蓄積される 魚介類を通じて人間も？

2. SDGsの特徴とめざす世界

「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

誰も置き去りにしない

持続可能な開発の3つの側面

経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの主要素を調和させることが不可欠

3つが調和しないと持続可能な社会にはならない（バランス重視）

SDGsのウェディングケーキモデル

1992年 地球サミット → MDGs → SDGs

MDGs（8ゴール21ターゲット）からSDGs（17ゴール169ターゲット）へ

途上国に向けた目標

すべての国の目標

SDGsはすべての国の目標であり、包括的で互いに関連している

SDGsの枠組みと特徴

①MDGsの深掘り（例：極度の貧困 → あらゆる貧困）1・2・3・4・5・6

②先進国にも関わりの深い新たな課題7・8・9・10・11・12・13・14・15・16・17

普遍的：目標は普遍的なものであり、すべての国とすべての人による行動を必要とする

すべてが関連しているので、1対1対応、個別対応ではいけない 総合的に取り組むことが必要

幅広く野心的であり、「誰も置き去りにしてはならない」ことを強調

SDGsがめざす世界像

①すべての人生が栄える、貧困・飢餓・病気および欠乏から自由な世界

②人権、人の尊厳、法の支配、正義、平等および差別のないことに対して普遍的な尊重がなされる世界

③すべての国が持続的で、包摂的で、持続可能な経済成長と働きがいのある人間らしい仕事を享受できる世界

→ 「誰一人取り残さない」世界の実現

持続不可能な社会の現出 ～身近に迫るリスク～

能登地震 東日本大震災

自然災害の多発化・激甚化・広域化（災害列島日本）

4つのプレートに浮かんだ災害列島日本

津波は水深が深いところほど速くなる 水深5000mで時速800km

陸地に近づいてきて、時速36kmぐらい

能登半島の実地検分から

実際に現地で見聞すると伝え方が違ってくる
だれもない被災地（ボランティアも入っていないところも）
海岸の隆起 2m～4m 港が使えない状況

南海トラフ地震迫りくるリスク

30年で70～80%の発生確率
被害想定 死者約231000人 負傷者525000人 全壊・焼失棟1512000棟

地球温暖化から地球沸騰化の時代へ

世界全体のCO₂排出量 中国、アメリカ、インド、ロシアに次いで日本（3.2%）は5番目
身近に迫る気象災害の脅威
気候変動による森林火災の増加
進む砂漠化
異常気象
海面水温の上昇 → 土地の水没、台風の発生、魚種の変化、生物多様性の喪失 など

問題なのは、グリーンランドやアラスカなどの氷河が溶けること

被害を受けているのはCO₂を出していない途上国

加害者は先進国の排出しているCO₂

→ この不条理こそが学ぶポイント

データをもとに学ぶことがこれからのESDでは大事ではないか 「データ ESD」

ESDを進めるのであれば、今何が持続不可能なのか、なぜそうなのかをデータをもとにしてきっちりと学ぶことが大事。 → そのために、まず教員がしっかりと学ぶこと！